

## ■ 労務管理者協議会 ■

＜日勝生加賀屋旅館の正面玄関前にて参加者一同＞



当議会は本年創立45周年（昭和47年7月発足）を迎えたことを記念し、5年毎に開催している「海外企業視察」を11月24日（15:00-17:00）に実施した。参加者は18名。

今回の視察先は、台北において日本の名旅館・和倉温泉「加賀屋」が現地法人で経営する「日勝生加賀屋旅館」とした。同旅館は従業員を現地採用し、日本式のおもてなし等の教育を行う施設をかまえており、旅館の立ち上げ時点から現在に至るまでの経緯・問題点など、特に人事労務関連について、その土地柄特有の事情の研究を目的に視察を行った。

視察では初めに董事の徳光重人氏より次の要旨による講演が行われた。

＜講師 徳光重人氏＞



### ■ 講演要旨

徳光氏は1961年に石川県加賀市に生まれ、金沢大学教育学部を卒業後、(株)ザ・ピックススポーツクラブの運営に携わった後、1995年に台湾現地法人鉅運股份有限公司総経理に就任した。そして2004年には日勝生加賀屋国際温泉飯店の総経理となり、2010年デベロッパである日勝生との仲立ちを行い、「日勝生加賀屋」をオープンさせた後、2015年12月からは日勝生加賀屋国際温泉飯店の社外取締役とな

っている。

公職（ボランティア）としては、八田技師夫妻を慕い、台湾と友好の会・世話人代表（金沢）、財団法人記念八田興一文化芸術基金会・副執行長（台湾）、石川県観光親善大使（台湾）、台湾石川県人会・代表、台湾日本人会・理事などを歴任している。

日勝生加賀屋国際温泉飯店股份有限公司を立ち上げるための従業員採用では現地採用とした。当地は日本好みの傾向があり、70名募集のところ300名の応募があったため、書類選考で日本語検定1～2級の者に絞り採用した。現在20歳台が殆どの従業員構成となっている。

台湾の離職率は2～3年で30%、自己でキャリアアップをしながら転職を繰り返すのが一般的だが、日勝生加賀屋では7年で8名残っており、比較的勤務年数が長い。ただし、日勝生加賀屋で勤めていたら転職しやすいという風評もある。

従業員教育では台湾での「おもてなし」を徹底し、オープン時には6カ月にわたり和倉温泉加賀屋より指導者を台湾に呼び寄せ、お茶・お花・正座・にじり進み・着物の着付けなどの教育を行った。

従業員教育のポイントは、「日本ではこういう精神だからそれに倣え」では「ここは台湾だ」との反発心が起こる傾向があるので、「心」ではなく「仕事」であることを強調し、やるべき仕事の枠を示すように工夫した。まず「型」をつくり、それに「精神」を宿らせるという方法である。

例えば「予約係が受けたお客様の情報お客室係に伝え、お客様の喜ぶことに気遣いをさせる」ことが「おもてなし」に通じることを勉強させるのである。

勿論、お客様から様々なクレームをいただくこともあるが、そのような時には会社として社員を守る

ことも徹底しているところだ。

また、建築についても和倉温泉加賀屋の形式に則り、柱目の松を使用し、障子の棧の幅も統一するなど、日本から宮大工を呼び台湾の大工を教育しながら建て上げた。

.....

最後に徳光氏は「台湾生活21年で学んだことは、天命を知り使命として人事を尽くすことである」と結んだ。

講演最後に当協議会幹事長の川村進一氏よりお礼を述べ、参加者一同、日勝生加賀屋を後にした。



<お礼を述べる川村進一幹事長 >

今回の視察日程は11月24日～26日の2泊3日の行程である。

25日は九份・野抑海岸・基隆・タイペイ101などを視察し、夕食は國賓大飯店（アンバサダーホテル台北）のレストラン「川菜庁」にて四川料理を経験した。



<九份／「千と千尋の神隠し」のモデルの街並み ↑>



<タイペイ101にて 夜になって雨もやっとあがる ↑>

視察最後の26日は故宮博物院を視察。この博物院は、中華民国の国立博物館のうちの1つであり、696,000個以上の古代の中国の人工品および美術品を所蔵しているとのことである。ほとんどの収集物は中国の古代の皇帝によって集められた高品質なものだと言われている。



<故宮博物院の正面で全員集合 ↑>

故宮博物院視察後、シティスイツ桃園ホテルにて昼食をとり、台北桃園空港発・高松空港着にて全員が無事帰国し、3日間の行程を終了した。

### 12月例会／45周年事業・記念講演会

当協議会は12月15日、高知会館において創立45周年を記念して講演会を開催した。参加者は特別ゲストの京都経協の川村雅己参与、また特別参加の協議会OBの方々を含み総勢30名。

始めに川村進一幹事長より開会挨拶と「45年の歩み」の紹介および「今後の活動への誓い」の表明があった。

<挨拶する川村進一幹事長 >



講演会では「結果至上主義のリーダーはなぜ失敗するのか」と題して、本田コンサルタント事務所・

代表の本田有明氏より話を伺った。

本田有明氏には平成24年11月開催の高知経協会員懇話会での講演以来、何かとご指導を賜り、全国的に経営や人材育成に関するコンサルティングのほか、各種講演・執筆活動にと活躍されている。



<講師 本田有明氏 >

今回は「リーダーシップのPM理論」をはじめ、「経営者・幹部に求められる意識」や「不祥事の高リスクが体質」「コンプライアンスの解釈」など具体事例を示しながら、「人格的な真摯さを評価することにより、自分たちの会社は自分たちでよくしよう」と、示唆の富んだ講演いただいた。



<本田氏に質問をする 中川香代氏 >



<講演会の様子 >

講演後、講師を囲んでの忘年懇親会を開催し45周年事業の全てを終了した。



<グループで1曲を唄いあげ、点数を競うゲーム >